

**広島大学病院で
診療を受けられた患者さんへ
～臨床研究に関する情報公開について～**

当院では、下記の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報等の診療情報を研究目的に利用されることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象とはしませんので、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。また、研究の詳細についてお知りになりたい場合も、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。なお、研究の詳細については、他の研究対象者等の第三者の個人情報や知的財産の保護に支障がない範囲内での開示となります。

研究課題名	常染色体顕性多発嚢胞腎における腎移植後嚢胞縮小率のprediction modelの確立 多施設共同研究			
研究実施期間	院長が研究実施を許可した日 ～（西暦） 2027 年 3 月 31 日			
研究実施診療科	移植外科			
研究の倫理審査等	治験・臨床研究審査委員会審査日	2025 年 5 月 27 日		
	院長が研究実施を許可した日	2025 年 7 月 23 日		
対象となる方	（西暦） 2010 年 4 月 1 日 ～（西暦） 2025 年 3 月 31 日に、当院移植外科において、常染色体多発嚢胞腎（ADPKD）のために腎移植を受けた方			
主たる研究実施機関	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 （研究代表者氏名：渡井至彦）			
共同研究機関	別紙【研究組織】参照			
当院の研究責任者	所属	移植外科	氏名	井手健太郎
研究の意義・目的	常染色体顕性多発嚢胞腎は腎移植後に自己腎の嚢胞が縮小することが知られており、当院の症例においても術後 1 年で約 40%、嚢胞容積が縮小しました。しかしほとんど嚢胞縮小を起こさない症例も見られます。巨大な嚢胞腎は腹部膨満感による生活の質の低下や移植腎圧排などの影響があり、その縮小率が術前に予測できれば術前、術中の嚢胞腎摘出術が必要かを判断する材料になる可能性があります。			
研究の方法	対象となる方の臨床情報について、診療録を振り返って収集し、集められた情報を研究代表者が解析します。			
研究に使用するもの	診療録から得られる情報を、個人を直ちに特定できるような情報とは切り離れた状態で使用します。（年齢、体重、性別等の基本情報、術前、術後 1 年の嚢胞腎容積（CT 画像検査結果）、血液検査結果等）			
結果の公表	関連学会や学術論文等で発表予定です。対象者の氏名等の、直ちに個人を特定できる情報を公表することはありません。			
個人情報の保護	対象者の方の情報の使用に際しては、氏名や住所等といった個人を直ちに特定できるような情報とは切り離し、対象者個人とは無関係の番			

	号を付けた上で、研究責任者の責任の下、廃棄するまで厳重に保管・管理します。
研究の資金源	本研究は特に資金を必要とせず、外部からの資金提供もありません。
利益相反	本研究の実施にあたり、研究の透明性や公正性を損なうような利益相反はありません。
情報等の二次利用	本研究で得られた情報等は、将来、本研究に関連する別の研究のために利用させていただく可能性があります。その場合には、その計画について別途倫理審査を受け、承認を得た上で使用します。二次利用を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。
問い合わせ先	広島大学病院 移植外科 井手健太郎 電話 082-257-5222

《別紙》

【研究組織】

1. 研究代表者

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 移植外科・移植内科・内分泌外科
渡井至彦

2. 共同研究者

所 属	責任者
愛知医科大学 腎移植外科	小林孝彰
東京女子医科大学 泌尿器科	石田英樹
九州大学病院 第一外科	久保進祐
順天堂大学大学院医科学研究科 泌尿器外科学	中川由紀
市立札幌病院 腎臓移植外科	佐々木元
大阪大学大学院医学系研究科 器官制御外科学講座	角田洋一
熊本赤十字病院 移植外科	山永成美
新潟大学 腎泌尿器病態学分野	田崎正行
弘前大学大学院医学研究科 泌尿器科学講座	畠山真吾
広島大学病院 消化器外科 移植外科	井手健太郎

3. 研究実施施設

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 移植外科・移植内科・内分泌外科
愛知医科大学 腎移植外科
東京女子医科大学 泌尿器科
九州大学 第一外科
順天堂大学大学院医科学研究科 泌尿器外科学
市立札幌病院 腎臓移植外科
大阪大学大学院医学系研究科 器官制御外科学講座
熊本赤十字病院 移植外科
新潟大学 腎泌尿器病態学分野
弘前大学大学院医学研究科 泌尿器科学講座
広島大学病院 消化器外科 移植外科